



正門より見た新本館、16階より江ノ島を望むことができる

《目 次》

平成14年度総会・懇親会……………	2	工学会（生物環境工学科）……………	13
日本大学校友会の抱負・副会長に再選されて…	3	F T会（食品科学工学科）……………	14
校友会の継続・より良き発展に向けて・学部		拓友会（国際地域開発学科）……………	15
校友会の課題・開かれた校友会目指し……	4	むつあい会（短期大学部農学科）……………	16
農学校友会（植物資源科学科）……………	6	生活環境学科校友会	
紫友会（農芸化学科）……………	7	（短期大学部生活環境学科）……………	17
角笛会（獣医学科）……………	8	応用生物科学科校友会	
満喜葉会（動物資源科学科）……………	9	（応用生物科学科）……………	18
いもづる会（食品経済学科）……………	10	支部だより……………	19
あすなる会（森林資源科学科）……………	11	校友会事務局から……………	21
桜水会（海洋生物資源科学科）……………	12	校友会役員・事務局名簿……………	22

平成14年度総会・懇親会開催される



日本大学生物資源科学部湘南校舎NUホールで開いた総会

平成14年度総会・懇親会開催される。

平成14年度総会は7月13日(土)14時より、日本大学生物資源科学部「NUホール」において開催された。当会場は本年1月に竣工した新本館棟の最上階にあり、校友各位へのお披露目をかねて選定された。総会は木村貞司事務局長の開会の辞、茂澤 卓会長より挨拶が述べられた後、茂澤会長を議長に選出し議事へと進行了た。

議事では木村事務局長より、一般経過報告、本部校友会会則の変更について報告があった。次いで、千野会計担当から決算報告(収入30,826,795円、支出28,152,636円、基金積立金9,053,534円、名簿積立金4,978,103円)の後、西山栄一監査から帳簿・領収書等が適切に処理されている旨の監査報告が行われた。また、千野会計担当より、平成14年度会計予算案が提示され、本部校友会の新制度に未だ確定しない部分が多く、来年度も本年に準じた事業計画および予算計上(収入は29,550,000円、支出29,550,000円、基金積立金9,053,534円、名簿積立金4,978,103円)とすることが報告され、異議なく承認された。

また、村田副会長より本部校友会会則の主な改正点は会費徴収方法の変更であるが、学部(支部)により校友会の活動状況が異なるため、詳細は未定との説明があった。これに対し、改正後の会費配分比率(本部校友会：学部校友会：分会「学科」)、準会員会費納入期間の差、学部校友会における法人格の取得等の質問・意見が述べられ、今後の検討課題となった。さらに、村田副会長(総務委員長)より学部校友会会則改正の提

案があり、審議の結果 会の名称を日本大学生物資源科学部校友会とする(会名称の略称は削除)。正会員に大学院生物資源科学研究科の修了者を加える。副会長3名を若干名に変更。の三点を改正し、本部校友会会則改正への対応は今後の検討課題となった。また、平成14年度～16年度の校友会役員・事務局長(案)が提示され、原案に岡崎祥子氏の副会長就任を加えて承認された。その他、近藤副会長が辞任されたことから、長年の会運営への尽力に対し、記念品の贈呈が行われた後、本江一郎新事務局長より就任の挨拶により総会を閉会した。

懇親会は新本館棟ガレリア階の銀座スエヒロにおいて52名の来賓、90余名の会員が参集しての開催となった。開会に先立ち茂澤会長が挨拶された後、来賓の日本大学副総長・生物資源科学部長佐々木恵彦先生ならびに日本大学校友会本部長・田中英壽先生より祝辞を頂戴した。さらに、来賓紹介の後、生物資源科学部事務局長・松橋一三先生の音頭で乾杯が行われ、歓談へと移った。最後は冨澤副会長の閉会の辞でお開きになった。



新しく決った会長・副会長・事務局長

「日本大学校友会の抱負」

日本大学生物資源科学部校友会

会 長 茂 澤 杲

21世紀社会を迎えたいま、日本大学校友会は傘下組織体（都道府県支部65団体・学部別15団体。組織別4団体）の連絡調整期間として母校の発展に貢献してきましたが、これから更なる発展を考えて大学からの補助金をとり、真に大学を支えるパートナーとして、自立自助の精神に徹して名実ともに独立した新しい校友会創成に踏み切りました。このことは、常任委員会においてまず会則の大改正が検討審議され、役員総会において可決承認されました。この目的と考え方その運用等は、日大人と母校を結ぶコミュニケーション誌（絆）をはじめ大学広報大学新聞等で詳述されました。最も諸事業を達成させるには校友会の法人化を促進することを視野に入れて、念願の校友会館設置運営また学生に対する支援校友子女推薦等構想の実践は様々です。

然し乍らこの会則大改革には、現行の文系理系の各学部校友会自体それぞれ温度差があり、この取組には調整と合意性整合性が求められ、総務委員会を中心に各委員会協力のもと精力的且直裁に尽力してきました。そして、現行の各学部校友会の活動を支援し、その実績と財源は尊重してゆくことが決まりました。

新会則では、各学部の卒業生は団体会員となり、学生を準会員さらに、卒業生で改めて日本大学校友会に年会費を支払い登録された会員を正会員と呼ぶことになりました。入会は任意です。平成15年度からの入学者には校友会準会員として入会してもらうことを入学案内に記載されます。この様にこれからの校友会の方向性の骨格として、現行傘下組織の一体化を促進し、さらに連絡調整機関から前進して自立共生組織体制の確立を期そうということです。卒業生である校友は是非入会していただきたいと思います。

また、これより以前に校友会では5つの委員会（総務・財務・広報・企画・組織）が会長の諮問機関として活動し、私は財務委員会に富沢学部校友会副会長と所属し、卒業生の強いコミ



ュニティーの絆を昂揚するため日大カードの発行に努めてきました。幸い大学の協力が得られ、日大iクラブが誕生し日大カードの発行となりました。瀬在総長も、この日大カードは母校が有する教育研究財産を校友はじめ関係者に広く還元し、他方校友各位の活動から醸成された貴重な社会的成果を母校に還元する媒体としようといわれています。

そして既に活動を開始しています。私は平成11年学部校友会報第52号に日大カードについての抱負を記述し、カードの還元利益で是非校友会給付奨学金としてこれが制度化の確立を提案し、道は遠くてもこれを受ける学生が4年間継続して安心できる学生生活を過ごせることを願い同時にこれが多くの校友の想いであり、準会員の学生を輝かすことになると信じています。日大の財産は、各学部に集まって育まれ、卒業して社会に貢献する個性あふれる人材にあると思います。21世紀はまだ始まったばかり。憂うつな現代社会を切り開くためにも全日大人がそのもてる能力資力を十分に発揮するときは、まさにいまと思います。

終わりに日本大学校友会が母校の魅力を凝縮して新たな発見と力を与える出会いの場であり続けるよう、ひたすら尽力していきたいと思います。

（日本大学評議員・日本大学校友会副会長）

副会長に再選されて

副会長 富澤 寿樹



去る7月13日の学部校友会の総会で副会長に再任され、心新たに身の引き締まる思いであります。

今後共茂澤会長を支えて校友会のためにその職責を全う致す所存であります。

申すまでもありませんが校友会の目的は会員相互の親睦と向上、そして母校の発展に寄与することにあります。これも会員の皆様の母校愛より発したご協力、ご支援がなければ達成できないことでもあります。何卒校友会活動へのご理解をお願いする次第であります。

すでにご案内のように日本大学本部校友会も新しく生まれ変わろうとしておりまして総務、財務、企画、広報、組織と5つの運営委員会が設けられ活動してまいりました。私は昨年までは財務委員としてその末席を汚してまいりましたが、本年から企画委員を命ぜられ8月5日に第一回企画委員会が開催されました。

検討事項案として、校友全国大会、校友ゴルフ大会、その他のイベントとして校友タレント、校友力士、校友スポーツ選手等の体験談及び懇親会など今後検討することになりました。

これらの企画が実現し多くの会員の皆様が参加下されば校友会が一層発展の途上を歩むことになると信じます。

校友会の継続・より良き発展に向けて

副会長 村田 昇



副会長という重職を拝命して、早や2期6年が過ぎてしまった。この間世の中は大きな変化をし、激動の時代となっている。とりわけ、景気の低迷、未曾有のテロ事件の発生、大企業や政治家の不祥事の発覚等、

暗いニュースが続いている。これ等に起因して、企業ではコスト削減、固定費の削減が企業存続の中核的な策を占め、リストラによる失業者の増大、就職難による若者のアルバイトの増大、またIT技術の急激な発展に伴う社会システムの変化等に対し、社会全体が苦慮し、多方面で変革、改革が進められている。

このようななか、校友会はどうか、良き時代であっ

た、これまでの運営方法だけでは、先任達の築かれてきた校友会は消滅しかねない危機に直面していると言わざるをえない。

ボランティア団体といえども継続し、より良い発展を期さなければならないと考えている。

数年前より心掛けながらも遅々として具体的成果はでていないと反省ばかりである。

しかし、日本大学校友会はいち早く改革を断行した。その傘下組織である学部校友会並びに各分会も、早急に良いシナリオを策定し、実行するときである。

そのためには、①情報の共有、②意見交換、討議の場の創出、増大、③意見の集約及び合意形成、④出来ることから実行、見直し等を早急に実行、新しい校友会の運営システムを確立し、関係者一同心を一つにして、より良い校友会発展の礎を築き、後輩達へ引き継いで行きたいと考えている。

会員皆様にも参加していただき、御協力、御鞭撻をお願いする次第である。

学部校友会の課題

副会長 楠 元 守



先日の学部校友会総会で副会長に推挙され、適任者はほかにも沢山おいでになるのにと、正直なところやや戸惑っている。

しかし、お引き受けした以上、会則を遵守して会長を補佐し、会員の皆様とともに会の目的達成のために努力したいと考えています。

さて、本部校友会発行の「絆」でご案内の通り、本部校友会会則の変更に伴い、来年から会費の徴収法が変更され、学部校友会でも大きな対応を迫られることになりました。また、国の法改正に伴って、校友会も時代の流れは法人化の方向にあり、学部校友会も検討を開始しなければならない時期に至っているものと考えられます。

さらに情報化の時代は、会員相互間はもちろんのこと、会員と学部校友会、新入生と校友会等との緊密で正確な情報交換が求められるものと考えられます。

これらは、学部校友会がこれまで経験したことのない問題であり、会員の英知を結集するとともに、会員の皆様の積極的なご支援・ご協力と、役員・事務局員の協調と協力が不可欠な時代を迎えたものと考えられます。

会員の皆さま、学部校友会の発展のために、ご指導・ご鞭撻の程、お願い申し上げます。

開かれた校友会目指し

副会長 岡崎 祥子



校友会の仕事に携わり、はや10年が経ち、このたび、副会長の重責に任ぜれることとなりました。微力ながら、今まで以上に校友会のため、専心努力してまいりたいと思います。副会長として、私の最初のお願ひは、是非みなさんに校友会にご出席いただきたいということです。

校友会という、時間に余裕がある方が参加するというイメージが強いと思いますが、私はそれだけとは思っていません。インターネットが普及し、情報が手軽に手に入る時代となり、情報過多と呼ばれ

る現象が起っています。その中で、人と人の繋がりがこそ、大量の情報を選別し乗り切っていくキーワードになるのではないかと思います。

私も卒業してすぐ（何年前とは聞かないで、）、校友会に参加したときは、私の父より年齢の上の男性の方が大勢いらっしゃいました。友達とは違う話題、異業種の話ばかりで戸惑いを感じました。ただ、なかなか出会えない方とお話は、きっと自分にプラスになるだろうと思い、校友会の仕事を続けさせて頂きました。今振り返ってみれば、多くの方からいろいろなことを教えて頂いたと思います。人脈も広がり、話題も豊富になった気がします。先生とお話することで、校友会に参加している時が唯一科学と触れあう時でもありました。

私は、皆さんすべてが参加できる「開かれた校友会」を目指しています。ぜひ、一緒に日本大学校友会を盛り上げていきましょう。

みなさんの参加をお待ちしています。

瀬在幸安総長・佐々木恵彦学部長が再選

任期満了に伴う次期日本大学総長の選出について、平成14年5月14日(火)日本大学総長選挙規則に基づき総長候補者推薦委員会が開催され、現総長が推薦されました。その後、所定期間内に他の総長候補者推薦の届け出がなかったことから、総長選挙管理委員会は瀬在幸安氏を次期日本大学総長として確定致しました。任期は本年9月1日から3年間となっております。

また、平成14年7月17日(水)、生物資源科学部学部長候補者選挙が行われ、即日開票の結果、佐々木恵彦教授(現学部長)が2/3を越える得票を集めました。この結果を受けて、翌7月18日(木)の教授会の議を経て、佐々木恵彦教授の次期学部長就任が確定し、また、9月6日開催の理事会において、総長の代理、代行者に決定致しました。

生物資源科学部創設50周年ならびに新本館棟の竣工に記念品を寄贈

学部校友会および各分会は昨年度総会において承認された事業の一環として、生物資源科学部創設50周年ならびに新本館棟の竣工に際し、平成14年1月30日記念品の寄贈を行いました。

新本館棟は地上14階、地下2階の威容を誇り、富

士山や江ノ島、横浜の街を一望できるNUホール、同時通訳システムを備えた大講堂、カフェテリアやラウンジのあるギャラリー等、施設・設備も充実し、湘南キャンパスの象徴となるでしょう。



新本館新築にともない学部へ寄贈した織画（図案はモネの睡蓮、朝・真昼・薄暮）

記念品はクロード・モネによる睡蓮の三部作(朝・真昼・薄暮)を手織りの綴通(織画)によってあらわしたもので、1枚が330cm×高さ200cmのサイズです。この織画は、伝統工芸の手法による独特のアートと

しても高く評価され、パチカン宮殿や皇居新宮殿、赤坂離宮へも納入されています。新本館棟のギャラリー階ホール側壁に飾られておりますので、ご来校の折りはぜひご覧ください。

農 学 校 友 会

◇植物資源科学科◇

連絡先 作物学研究室
0466-84-3620 事務局長 藤井 秀昭

E-mail:fujiaki@brs.nihon-u.ac.jp

平成14年度総会・懇親会開催

5月18日(土)に湘南校舎の本館棟14階のNUホールにて総会が開催されました。総会・懇親会は毎年5月第2土曜日に開催が予定されております。江ノ島や大学周辺が全望できるすばらしいホールにて総会が始まり、議題は1)平成13年度事業報告 2)平成13年度会計決算報告 3)平成13年度会計監査報告 4)会則の一部追加と庶務一般規定改正審議 5)役員の改選および承認 6)平成14年度事業計画案審議 7)平成14年度予算案審議が検討審議され、満場一致で承認されました。その後、本館地下のカフェテリアにて懇親会が行なわれ、全教員および研究室の学生(20名)が招待され、盛会に終了しました。

新会長・役員・理事の選出

平成11年度より3年間(1期)執行部として活動してまいりましたが、15年度に50周年記念式典を迎えることもあり再選されました。会長は楠元守氏(13期)、副会長には浅川廣治氏(18期)、石川稔矩氏(19期)が就任され、会計理事には久保田昌幸氏(17期)、庶務理事は勝野武彦氏(21期)が再選され、6名の新理事・監査役が選出されました。

新役員の紹介

会長・理事	楠元 守氏(13期・再)
副会長・理事	浅川廣治氏(18期・再)
副会長・理事	石川稔矩氏(19期・再)
庶務理事	勝野武彦氏(21期・再)
会計理事	久保田昌幸氏(17期・再)
理事	志村英世氏(4期・再)
理事	芦川藤吉氏(11期・再)
理事	鈴木清一氏(24期・再)
理事	遠田光雄氏(25期・再)
理事	前田幸雄氏(27期・新)
理事	坂本立弥氏(29期・新)
理事	坂倉龍彦氏(29期・再)
理事	佐々木 透氏(30期・再)
理事	小木曾 裕氏(31期・再)
理事	市川 靖氏(37期・再)
理事	和田 薫氏(38期・新)
理事	八住智和氏(45期・新)
理事	葉山博史氏(49期・再)
理事	小野寺智之氏(53期・新)
監査役	稲葉敏雄氏(17期・新)
監査役	赤木洋行氏(26期・再)

50周年記念式典のお知らせ

農学校友会が発足して平成15年で50周年を迎えることになり、校友会では平成11年度より50周年記念事業実行委員会を設置し、式典に向けて活動してまいりました。式典は平成15年10月12日(日)です。翌日の13日(月)は休日となっております。後日、会員に正式なご連絡がありますが、ぜひ、級友と共に生物資源科学部湘南校舎にご来校下さい。お待ちしております。平成14年2月にキャンパスが大きく整備され、また、12号館(7F)の1、2階に学科全体が移転します(写真参照)。



12号館(1、2階)に学科が移転(右側の建物)

学 科 の 近 況

学科主任は勝野武彦教授、大学院生物資源生産科学専攻主任は福原敏彦教授、米田和夫教授は学部執行部の学生担当を引き続き就任され、活躍しております。この1、2年で先生方の移動があり、先生方の所属研究室を紹介します。作物学研究室(石井龍一教授・藤井秀昭助教授・磯部勝孝専任講師)、花卉園芸学研究室(米田和夫教授・百瀬博文専任講師・窪田聡助手)、果樹・蔬菜園芸学研究室(井上弘明教授・立石亮専任講師)、遺伝育種学研究室(池橋宏教授・野村和成助教授・穴戸理恵子助手)、緑地・環境計画学研究室(勝野武彦教授・藤崎健一郎専任講師)、植物病理学研究室(前田孚憲教授)、応用昆虫学研究室(福原敏彦教授・岩野秀俊助教授)、造園学研究室(吉田博宣教授・葉山嘉一専任講師)実験準備室(長谷川門副手)の合計19名の教員で教育・研究を行っております。平成13年10月31日に立石亮助手が「果実の軟化機構におけるグリコシターゼの役割とその遺伝子発現」にて、名古屋大学にて博士(農学)の学位を、平成14年3月18日に葉山嘉一専任講師が「鳥類の生息環境としての都市圏樹林地に関する研究」にて日本大学より博士(農学)の学位を授与されました。さらに今年4月には岩野秀俊助教授が日本蚕糸学会より蚕糸学進歩賞を受賞されました。各先生には今後益々のご活躍が期待されます。今年、4月に私こと井上が教授に、立石亮助手が専任講師に昇格しましたのでご報告します。

計報 昭和44年～53年まで作物学研究室の教授として、ご活躍されました戸荻義次元教授が9月4日にご逝去されました。享年93才。ここに慎んでご冥福をお祈り申し上げます。(井上 弘明)

紫 友 会

◇農芸化学科◇

連絡先 土壌学研究室
0466-84-3953 事務局長 隅田・裕明

E-mail: hsumida@brs.nihon-u.ac.jp

平成13年度総会・懇親会を開催

平成13年度の紫友会総会が平成13年11月24日、横浜市中区にあるメルパルク横浜で開催されました。総会では茂澤会長会の挨拶の後、平成12年度の事業報告、決算報告、監査報告ならびに平成13年度の事業計画、予算案について厳正に審議がなされ、いずれも承認されました。総会の後、多数の来賓と会員が出席し懇親会が盛大に行われました。懇親会には紫友会平成13年度（第8回）奨学生が招待され、懇親会の席上で表彰が行われました。

平成14年度第9回紫友会奨学生決定

紫友会40周年記念事業の一環として発足した紫友会奨学生の第9回生9名が、同奨学生選考委員会（有賀豊彦委員長）により厳正に選考され下記のように決定いたしました。第9回紫友会奨学生の表彰は本年11月の紫友会総会・懇親会時に行われる予定です。

2年次 堀越律子、箕浦佳代、水越舞

3年次 小田奈央、井田武史、川口麻耶

4年次 小池亜希子、河野美千代、加島洋亨

農芸化学科の近況

農芸化学科は本年4月に新入生150名を迎え、4年次まで総計661名の学生が在籍しております。学科主任に有賀豊彦教授、大学院農芸化学専攻主任に奥忠武教授が就任されております。本年4月1日付で食品化学研究室的熊谷日登美先生が助教授に昇格されました。また、実験準備室の野口勝枝副手は本年3月で退職され、後任として本年3月に本学農芸化学科（栄養生理化学研究室）を卒業された三沢聡美氏が採用され活躍されております。西尾俊幸先生



三沢聡美副手

（生物有機化学研究室）は「糖水酸基が α -グリコシダーゼとリパーゼの活性と特異性に及ぼす影響」についてのご研究で、2001年度日本応用糖質科学会奨励賞を受賞されました。川東正幸先生（土壌学研究室）は財団法人地球環境産業技術研究機構の平成14年度海外派遣研究者として「シベリアにおける永久凍土層の分布が二酸化炭素の発生と土壤溶存有機物の生成に及ぼす影響」についてご研究のため、本年6月より8ヶ月の予定でドイツ・バイロイト大学に留学されております。

紫友会事務局より

校友会活動の一環として、例年紫友会杯争奪研究室対抗ソフトボール大会が開催されております。昨年は酵素科学研究室が一昨年に引き続き優勝し、二連覇を成し遂げました。平成15年に紫友会は結成50周年を迎えます。この記念事業として、記念誌の発行および農芸化学科への記念品の贈呈等を予定しております。また、年度ごとに開催されております総会・懇親会の規模を拡大した50周年記念パーティーの開催を企画しております。校友の皆様が広く交流を深め、旧交を温め楽しいひとときを過ごせる良い機会と思います。奮ってご出席くださいますようお願いいたします。



ソフトボール大会表彰式

計 報

紫友会の結成に尽力され、会長、副会長、また顧問として本会の充実と発展に貢献されました設楽茂雄氏が平成14年4月6日に永眠されました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。（荻原 淳）

角 笛 会

◇獣医学科◇

連絡先 獣医微生物学研究室

0466-84-3635 事務局長 鎌田 寛

Email : kamata@brs.nihon-u.ac.jp

角笛会総会を開催

角笛会総会が、7月6日(土)に藤沢校舎で開催されました。今年は例年に勝る猛暑でしたが、その暑い天候にも関わらず、全国から約百名の会員が10号館第4講義室に参集致しました。日比野次郎会長(S15卒)の挨拶の後、清水太郎氏(神奈川:S27卒)が議長選任を受けました。先年度事業報告、同会計報告及び監査報告(監事、小暮規夫氏:東京S24卒、堀口隆嘉氏:東京S33卒、福田陽一氏:東京S36卒)が承認されました。昨年度は例年と同様、凡そ30回にわたって各支部、同僚校友会に大学側、角笛会本部から出張を行いました。また、本年度事業計画についても認められました。本年度のANMEC支援基金授与候補は、中川秀樹委員長(神奈川:S40卒)の下で検討の結果、宮崎良雄君(H10岩大卒:ANMEC研修医)の「特殊血液検査の小動物臨床への適応について」に決定しました。また、茨城県新支部長飯塚達人氏(S34卒)が常任幹事に補せられました。各議事が満場一致で承認され、閉会した後、平成14年度角笛会功労者表彰式に移りました。永年の角笛会への貢献を讃え、川本紀夫(岐阜:S16卒)、影浦義博(愛媛:S16卒)、西岡定雄(京都:S23卒)、石川栄二、米倉忠夫(各神奈川:S24卒)、屋富祖幸栄(沖縄:S37卒)の6氏に、会長より表彰状と記念品とが授与されました。



総会終了後、午後4時から新本館棟地下に開設しているスエヒロ・カフェテリアで懇親会が開催されました。

殆どの総会出席者と多数の獣医学科教員が参加する中、各学科の校友会代表を来賓として迎え、冒頭、獣医学科主任渡辺 敏教授(神奈川:S37卒)より来賓、校友に御挨拶を戴いた後、拓友会新会長内田俊太郎氏の音頭で杯を挙げると、相互に親しく歓談の時を迎えました。約二時間、校友間の懇親を深めた後、小池専治氏(岩手:S28卒)が閉会の辞を述べられて、散会となりました。

獣医学科の近況

○獣医師国家試験

第53回獣医師国家試験の結果が平成14年3月19日に

発表されました。日本大学獣医学科からは新卒者132人が受験し、122人が合格しました。合格率は92.4%で、全国平均の86.9%を大きく上回りました。また、昨年の合格率91.4%も上回る好成績を残しました。

○表彰、受賞、学位等の授与

卒業生の青木瑞穂さんが優等賞、大森啓太郎さんと栗飯原しのぶさんが学部長賞、石川 朗さんが日本獣医師会会長賞をそれぞれ授与されました。

角笛会会長賞は、小熊圭祐君(獣医臨床病理学)、新村真海君(獣医衛生学)さんに授与されました。

今年度、大学院博士課程を修了し博士(獣医学)を取得された方は市川康明氏(犬のマイクロサテライト多型に関する研究)、伊藤美佳子氏(狂犬病ウィルスの分子疫学的研究)、深井克彦氏(ウシA群ロタウィルスの分子疫学的研究)、論文提出により博士(獣医学)を取得された方は、鯉江 洋氏(心エコーによる犬と猫の先天性疾患)、小西和世氏(イヌおよびネコの尿路由来大腸菌の病原性に関する研究)です。

○獣医学科入試・入学状況

現在、本学では種々の方法で入学者の選抜が行われていますが、獣医学科のそれぞれの受験状況は以下の表に示すとおりです。

選抜方法	募集人員	受験者数	合格者数	競争率
指定校推薦(普通科)	学部全体で110名	26(19)	12(9)	2.2
公募制推薦(普通科)	学部全体で55名	67(46)	9(7)	7.4
公募制推薦(関連産業後継者)	学部全体で44名	26(12)	8(6)	3.3
公募制(技能)	学部全体で22名	14(10)	2(1)	7.0
本校試験	50名	2,642(1,231)	105(63)	22.9
地方試験	10名	680(325)	25(8)	27.0

()は女子

本年度獣医学科に入学した1年生は154名(うち女子は92名)です。

○退職

吉田仁夫先生(獣医内科学)、竹内 啓先生(総合臨床獣医学)、高木 香先生(獣医臨床繁殖学)、貝瀬由美子さん(副手)が退職されました。

○昇格・移動

伊藤琢也先生(獣医衛生学)、鯉江 洋先生(総合臨床獣医学)が講師に昇格されました。

○新任

佐々木榮英教授(獣医内科学)、徳力幹彦教授(総合臨床獣医学)、佐藤雪太助手(実験動物学)、日暮美紀副手が採用されました。



佐々木榮英教授 徳力幹彦教授 佐藤雪太助手 日暮美紀副手

◇求人のお願ひ◇

女子学生の増加に伴い、小動物臨床の勤務医を希望する者が増えています。会員からの求人申し込みは学部就職指導課ならびに6年次担任(田中茂男教授、鎌田 寛助教授)までご連絡ください。

(丸山 総一)

満喜葉会

◇動物資源科学科◇

連絡先 動物生体機構学研究室
0466-84-3790 遠藤 克

E-mail: tendou@brs.nihon-u.ac.jp

満喜葉会総会開催

平成14年6月15日(土)午後3時より目黒雅叙園において、平成14年度日本大学満喜葉会総会が開催されました。総会は岩間会長挨拶の後、会則に従って会長を議長として議事に移り、平成13年度事業経過並びに会計決算が事務局より報告され承認されました。また、会計監査より監査結果についての報告がなされ承認されました。次に、平成14年度事業計画並びに予算案が事務局より提案され、審議後承認されました。役員の任期満了に伴う新役員の候補者に

ついて役員選考委員長より提案され、内田駿一新会長(昭和38年卒)を始めとした新役員が承認されました。また、永年に亘って本会の発展にご尽力いただいた前事務局長の小牧弘氏(昭和40年卒)と宮原晃義氏(昭和41年卒)に記念品が贈呈されました。

総会終了後、同会場にて懇親会が行われました。懇親会は荏原流れ太鼓ひびき會による和太鼓の演奏により開宴し、会場のあちこちで恩師や校友との再会を喜ぶ声が聞こえ、時の過ぎるのも忘れて親睦を深められました。

新会長就任

今年度から岩間脩氏(昭和36年卒)に代わり内田駿一氏(昭和38年卒)が新会長に就任されました。今後内田新会長の下で満喜葉会の運営が行われることになります。前会長の岩間脩氏には副会長を含めて永年に亘って満喜葉会役員としてご尽力いただきましたことに心よりお礼を申し上げます。



新入生歓迎会開催

毎年恒例の動物資源科学科新入生歓迎会が4月24日(水)午後5時より、湘南校舎食堂棟3階において満喜葉会との共催で行われました。歓迎会は学科主任泉水直人教授の挨拶の後、新入生との親睦を深めました。

学科の近況

昇格

平成14年4月1日付で加野浩一郎専任講師(動物

生体機構学研究室)が助教授に昇格されました。

事務局より

ここ数年前より在籍女子学生の割合が増加し、学生を取り巻く就職は極めて厳しい環境にあります。これに関する情報等がございましたら、事務局までご連絡をお願い致します。

また、今後の円滑な名簿作成と発行を行うにあたり、転勤による住所変更や結婚などによる氏名の変更の際には、お手数でも事務局までご連絡ください。

(園田 豊)

い も づ る 会

◇食品経済学科◇

連絡先 食品企業分析論研究室
0466-84-3410 事務局長 斎藤 武至

E-mail: tsaito@brs.nihon-u.ac.jp

2002年度 幹事会・懇親会

去る6月1日に2002年度の幹事会及び懇親会を藤沢グランドホテルにて開催しました。学科が湘南キャンパスへ移転して初めての年でもあり、会に先立ち午後2時から本館にある学科研究室、統計資料室等の施設見学を行いました。

幹事会では、昨年度の活動報告・会計報告・今年度の活動計画・予算案の審議がなされ、承認されました。今年は3年に1度の役員改選期でもあり、今後3年間の会務を担う新役員が次のように決まりました。会長 村山進、副会長 中村信也、千田徹、横川屹、斎藤和子、会計監査 高橋巖、長嶋高太郎の方々です。初の女性会員からの副会長が誕生しま



懇親会での役員紹介

した。また、これまで副会長、会計監査として会の発展にご尽力いただいた高野浩臣、高見伸一、野畑修氏のご苦勞に感謝申し上げます。なお、会の運営を3年間担ってきた下渡事務局長も退任されました。

懇親会は、学部、各分会、特別会員などの招待者や学生幹事などを含めて約70名の参加を得て、和やかなうちに盛会裏に終了しました。

学 科 の 動 静

【新入生研修会】本年、当学科は152名（男子93名、女子59名）の新入生を迎え、恒例の新入生研修会が4月20日に開催されました。食品経済に関わるビデオを鑑賞したあと、小グループに分かれて軽食を食べながら新入生、上級生、教職員を交えての懇親会が開かれました。そのとき行われたビンゴ大会では、学科教職員がそれぞれの思いを込めた賞品を用意し、当選者にその賞品を渡しました。

【スポーツフェスタ】5月25日に行われたスポーツフェスタでは、当学科が準優勝しました。最後の種目で一気に順位を上げ、熱のこもった応援もあり、新入生の団結が大いに高まりました。いもづる会では、当日、新入生にパンダナを配りました。

【オープンキャンパス】7月30、31日に開催されたオープンキャンパスは、学科移転の成果を活かすべく、研究室開放やビデオ上映会、パソコンによる自分の食事の自給率計算、食経クイズなどを企画しま

した。学科の内容を熱心に質問する女子高校生が多く見受けられました。

【特別講義】ことしで11年目を迎える3年生対象の特別講義は9月の3日間、ワタミフードサービス株式会社渡邊美樹社長の「ワタミフードサービスの理念と経営戦略」と題する集中講義が予定されています。ご承知のように、居酒屋チェーン「和民」として急成長を果たした創業者から、ビジネスの本質を学ぶ絶好の機会となります。

【人事】2002年1月に高橋正郎先生が、3月に高坂鉄雄先生が定年退職されました。両先生とも長く学科の教育・研究の中核を担われ、学科発展にご尽力いただきました。どうもありがとうございました。4月には三重大学から本学出身の大石敦志先生が専任講師として着任されました。また、盛田清秀先生が助教授から教授に昇格されました。なお、木島実先生がこの3月から9月までの間、韓国に留学されています。学科のより一層の充実・発展が期待されます。
(斎藤 武至)



準優勝した一年生と学科教職員

あすなる会

◇森林資源科学科◇

連絡先 森林環境保全研究室
0466-84-3675 事務局長 石垣 逸朗

E-mail: i-ishigaki@brs.nihon-u.ac.jp

あすなる会総会・懇親会を開催

平成13年10月20日(土)午後4時より私学会館アルカディア市ヶ谷において、平成13年度あすなる会総会・懇親会が開催されました。総会においては、あすなる会の新会長として赤塚敏夫氏(14期)、新副会長として金子賢治氏(14期)、宮島吉夫氏(20期)および佐藤恵子氏(23期)の3氏、新監事として松崎和夫氏(23期)、佐藤貴喜氏(37期)の2氏、相談役として日暮富士雄氏(1期)とすることが提案され、全会一致で承認されました。その後同会場において日暮相談役の音頭による乾杯の後、各期の幹事や各分会から御出席いただいた御来賓の方々と交え和やかな雰囲気の中、懇親会が行われました。

平成13年度あすなる会会長賞受賞者

平成13年度あすなる会会長賞に下記の6名が決定し、平成13年3月24日新高輪プリンスホテルにおいて行われた森林資源科学科卒業記念パーティーにて、表彰状と2万円相当の万年筆が記念品として贈呈されました。この賞は各ゼミより1名に対して、成績および人物が極めて優秀で、しかも、森林資源科学関連分野へ就職または進学した者に贈られます。

斎藤尚志 (森林・緑地造成ゼミ (株) 共立)
大河和夏 (林業経営学ゼミ 日本大学大学院)
小島以津佳 (木材科学・工学ゼミ 林野庁)
征矢優子 (森林・緑地保全ゼミ 信州ミサワホーム (株))
長谷川泉 (森林動物ゼミ 日本大学大学院)

森木田敬 (住宅・流通ゼミ 新潟県東蒲原郡森林組合)

学科の近況

今春、森林資源科学科は155名(男子105名、女子50名)の新入生を迎えました。この中にはOBの子弟も含まれております。5月25日には、赤塚あすなる会新会長にも御出席をいただき、学生食堂において新入生歓迎会が行われました。あすなる会より飲み物の差し入れを頂き、大いに懇親の実を上げることができました。近年は少子化の影響もあってか、学科への志願者数も横這い傾向にあるものの、環境問題の深刻化などから、森林や木材資源などに高い関心を持つ優秀な学生が集まる傾向にあるようです。今年度の2年次以降の学生数は、2年次155名(男子88名、女子67名)、3年次160名(男子100名、女子60名)、4年次159名(男子99名、女子60名)となっており、女子学生の数が学科全体の約40%を占めています。最近では、林野庁、県庁の林務課、森林組合などの現場への就職を希望する女子学生が増えています。

7月17日に行われた生物資源科学部長候補者選挙において、森林資源科学科教授で現学部長の佐々木恵彦先生が再選されました。学部発展のために益々御活躍されることと存じます。

事務局より

昨今の就職環境は非常に厳しいものとなっております。また、最近の経済情勢から突然勤め先を失う卒業生も少なからず居るようです。就職に関する情報をお持ちの会員諸氏は、上記連絡先までご一報いただければ幸いです。また、前報でもお願いいたしましたように、会員の動向を的確に把握するため、住所変更、氏名の変更などがございましたら、お手数でも事務局までご連絡下さい。

(宮野 則彦)



新入生の歓迎会

桜 水 会

◇海洋生物資源科学学科分科会◇

連絡先 海洋生物生理学研究室

電話 0466-84-3677 事務局長 小橋 二夫

今年は暑い日が例年以上に続き、温暖化、地球環境が狂ったと想像される昨今ですが、校友の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと拝察致しております。この一年間の桜水会ならびに学科の動向についてお知らせ致します。

創立50周年記念祝賀会

昭和27年3月に創立された桜水会も歴史を重ねて、平成14年度で創立50周年を迎えました。数年前から記念事業のための委員会が設置され、事業の内容などを検討してまいりましたが、7月6日に赤坂プリンスホテルで記念祝賀会が挙行されました。祝賀会に



50周年記念祝賀会の一コマ

は田沢智治本部校友会副会長、佐々木恵彦生物資源科学部長、学部執行部の先生方や学部校友会会長、各分会長、ご退職された先生方を始め桜水会員約150名が参加し、盛大かつ和やかな雰囲気包まれた時間を共有致しました。祝賀会に合わせて記念誌、名簿も発行されました。特に、記念誌は竹内桜水会長の挨拶、佐々木学部長、茂澤学部校友会会長、廣瀬学科主任の祝辞から始まり、追憶・回想・思い出、過去・現在・未来、歴代会長・事務局長座談会、略年史、学科教員・研究室紹介の5部構成で寄稿者は120名にもものぼり、全335頁の大記念誌になりました。

新役員の選出

祝賀会に先立って、同ホテルで理事会、代議員会が開催され、平成14年度からの桜水会役員が下記のように決まりました。

会長 櫻木 進 (10期)

副会長 鳥居太郎 (13期)

吉田良之 (15期)

会計監事 大谷木緑四郎 (2期)

事務局長 小橋二夫

学科の動向

退職 西出英一教授は平成13年12月4日をもって満70才になり、定年を迎え、引き続き本年3月31日まで非常勤講師として学生の指導に当たられましたが、任期満了にともないご退職されました。

昇格 荒 功一助手が4月1日から専任講師に昇格されました。ますますのご活躍を期待しております。

採用 森 司氏が専任講師（生体機能化学研究室 内田直行教授）、高井則之氏が助手（海洋生物資源管理研究室 吉原喜好教授）として採用されました。特に高井則之助手は当分の間下田臨海実験所に研究室を構え、実験所の業績向上に力を尽くして貰うことになりました。

また、蒲地美砂さんが副手として採用され、資源育成環境学研究室に席を置きますが、学科事務全般にわたって手伝いをお願いすることになりました。



森口 司 選任講師



高井 則之 助手



蒲地 美砂 副手

実験所大改修

記念誌にも書きましたが、本年9月から下田臨海実験所が大改修されます。改修後は事務室・所長室、教員研究室1、学生研究室1、図書コーナー兼備の講義室（70名収容）、実験室4、飼育実験室1、冷凍室1を備え、従来の実験所と比べて外観は変わりませんが内部は大変容をとげます。また、屋外に標本庫、工作室、漁具倉庫、海洋観測機器庫、約100㎡の水槽棟が新築されました。

この実験所をもっと活用するため、文部科学省のオープンリサーチセンター構想補助事業に「海洋生物の動態解析による持続的資源利用に関する総合研究」をメインテーマに3つのプロジェクト研究を申請したところ、改修費込みではありますが3プロジェクトで総額2億円で5年間の研究費補助が得られることになり大型機器7台が導入されます。また、今年度からこのプロジェクト遂行に伴って、臨海実験所に海洋生物資源教育研究センターが並設されました。

工 学 会

◇生物環境工学科◇

連絡先 農地整備学研究室
0466-84-3694 (FAX兼用) 事務局長 斎藤 公三
E-mail:ksaito@brs.nihon-u.ac.jp

『懇親会』開催される

村田会長の『ささやかでも良いから毎年、懇親会を開催したい』という主旨の基に今年も懇親会は開催されたが、今回は校友の絆を深めてもらう事と今後の本会の在り方を考える機会を提供することの目的の他に、『経済の低迷、世界中を混迷のるつぽに陥れたニューヨークでのショッキングな大事件を美酒をもって払さん』との大義も兼ねて、平成13年11月7日(土) 湘南校舎食堂棟 3Fにおいて開催された。

16時より開催されたが、完成間近の本館(16階建て)全景を見る良い機会となり、好評であった。会は酒川副会長の司会で、会長挨拶、学科主任(世良田教授)挨拶、乾杯(河野教授)の順で進行した。



懇親会風景

O B の 活 躍

昨年の本誌に報告しなければならなかったのが村上則幸氏(昭和58年卒)が『キャベツ収穫ロボットの開発』で平成13年4月に農業機械学会研究奨励賞を受賞されました。おめでとうございます。前年に戸崎紘一氏が同学会の森技術賞を受賞されていることから2年続けて、校友の活躍が賞を受けたことになります。報告が遅れましたことを深くお詫びすると共に、校友のご活躍に心から敬意を抱く次第です。

学 科 の 動 向

本年4月、青木正雄先生が助教授に、長坂貞郎先生が専任講師に昇格しました。昇格おめでとうございます。また生物資源・プロセス工学研究室に森嶋博元教授の後任として瀬尾康久教授が着任しました。先生は本年3月まで東京大学教授として教鞭を

今年の懇親会は校友間の近況情報交換をする目的もあったため例年と異なり、佳境に入ったところで参加校友全員に期別に自己紹介と近況報告を行ってもらった。期別毎に行ったので自分との先輩・後輩関係がわかるなど良かったという意見も聞かれ盛況のうちに会は閉会となった。

なお、二次会の方は例年のごとく行われたようである。

理事会開催される

学部校友会が開催された同日、同場所の平成14年7月13日、湘南校舎7号館 711実習室で18時より理事会が開催された。議長の選出後、事務局長より平成13年度一般経過報告および決算報告が行われた。引き続き、平成14年度の事業計画案および予算案の審議が行われ、承認された。

本年は理事の改選の年である。7月と言えば例年ならばすでに理事の改選が修了している時期であるが、本年は9月28日(土)に理事会、役員会を開催し新理事の選出をすること、また終了後、本館地下の食堂で懇親会を行うことが決議された。

執っておられました。先生方には今後もご活躍をお願いしたいと思います。

木谷 収教授が本年の春の叙勲で紫綬褒章を受けられました。また、平成5年に退職された青木志郎元教授が平成13年の秋の叙勲で勲三等旭日中綬章を授賞されました。誠にありがとうございます。

研究では、長坂貞郎専任講師が本年8月、『農業用ため池の水質変化と物質収支に関する研究』で農業土木学会研究奨励賞を受賞されました。誠にありがとうございます。さらなる御活躍を期待したいと思います。

訃報

昭和45年～51年まで勤務されていた山本 茂元教授が本年7月14日、老衰のため永眠されました。享年97歳でした。謹んで哀悼の意を表したいと思います。(川西 啓文)



瀬尾康久教授

F T 会

◇食品科学工学科◇

連絡先 食品学研究室

0466-84-3981 事務局長 竹永 章生

E-mail: takenaga@brs.nihon-u.ac.jp

F T 会活動報告

○F T 会理事会開催

F T 会理事会が平成14年4月13日午後4時より本学湘南校舎資料館（旧本館）第1会議室において行われました。理事会では平成13年度事業報告および会計収支決算が報告され、承認されました。さらに、平成14年度事業計画案および会計収支予算に関して報告が行われ、承認されました。



○F T 会総会および懇親会開催

平成14年6月15日午後4時より横浜崎陽軒本店の会議室にて平成14年度F T 会総会が行われました。理事会にて提案された事項に関して、報告・審議され、承認されました。その後、午後6時より懇親会が盛大に行われました。



○準会員（在学生）への活動

平成13年9月21日にF T 会補助のもと、3年生と教員との懇親会が盛大に行われました。また、平成14年3月25日には第37期卒業生へ卒業祝いとしてクオカードを贈呈いたしました。さらに、学業および人物優秀な学生へ贈られるF T 会長賞には南健治君が選ばれ、金一封が贈られました。最後に、平成14年5月25日に行われたスポーツフェスタでは参加した飲料物を補助いたしました。

学科の近況

○在学生

食品科学工学科では平成14年度は134名の新生を迎えいれました。各学年の在籍者数は2年生：148名、3年生：161名、4年生：168名となっております。全体として、女子学生が半数を超える状況であります。また、今年度より、学生実験のスタイルが変わり、戸惑う学生も見られますが、設備の整った実験室および講義室で勉学に励んでおります。



また、平成14年5月にはスポーツフェスタが行われました。多数の新入生が一致団結して、最後まで奮闘し、食品科学工学科は3位の成績を収めることができました。

○退職

平成13年12月22日付で中村良先生が退職されました。先生は平成8年より名古屋大学農学部から本学科へおこしになられました。食品製造学研究室（旧1研）を食品機能化学研究室へと改称され、新しい研究分野を学生に指導されるなど、本学科の発展にご尽力いただきました。今後とも、先生のご健勝をお祈りいたします。

○留学

食品衛生化学研究室（旧6研または、旧食品分析学研究室）の松藤寛先生が平成14年9月よりアメリカのカリフォルニア大学に1年間留学されました。健康に留意され、ますますご活躍して戻られることをお祈りします。

事務局より

会員の方々と、住所変更や改姓などがございましたら、ご面倒とは思いますが、ぜひ事務局までお知らせ下さい。

(阿部 申)

拓 友 会

◇国際地域開発学科◇

連絡先 国際経営研究室
03-3421-6437 事務局長 早川 治

E-mail: osamu@ca.mbn.or.jp

学科も拓友会も一新！

平成14年4月から国際地域開発学科も六会の湘南校舎に移転しました。新しい研究室は本館13階及び12階と実験を行う研究室は4号館2階です。本館の研究室からは江ノ島が正面にあり、晴れた日には伊豆大島が海に浮かぶ姿も見ることができます。また拓友会の役員も代わり、戦前卒業の近藤良三郎前会長から、戦後卒業の内田俊太郎会長へとバトンタッチされました。

平成14年度総会・懇親会開催

平成14年度総会は平成14年6月22日（土）湘南校舎本館62講義室において開かれました。近藤会長を議長に選出の後、早川事務局長から平成13年度事業報告・決算報告、平成14年度計画・予算、宮崎賞について報告が行われ、全員一致で承認されました。続いて会長より、役員改選の提案があり、討議の結果、次の新役員が承認されました。

会長：内田 俊太郎(43年)、副会長・会長代行：谷地 三知也(44年)、副会長：鈴木 孝昌(42年)、横塚 攻(44年)、常任幹事：宮永政次郎(19年)他10名、幹事：長谷川進(22年)他32名、監事：松沢成浩(19年)、山中修(42年)。事務局長：早川治(47年)、事務局4名。

なお、近藤前会長は顧問、浜口前副会長ら前副会長は参与として承認されました。

以上で議事を終了、新旧両会長の挨拶があり、総会を終了しました。

その後、食堂棟3階において懇親会が行われ、河野学部次長、富沢校友会副会長、各分会長を来賓としてお迎えし、新旧会長挨拶、宮崎賞を受賞した恩英さんの表彰等の後、浜口前副会長の音頭で乾杯が行われ、歓談へと移りました。

拓友賞・宮崎賞

卒業生に贈られる平成13年度拓友賞は篠宮裕子さんに、留学生に贈られる平成14年度宮崎賞は裴恩英さん(2年生・韓国)に決まり、卒業証書伝達式と総会懇親会の席上でそれぞれ贈られました。

学 科 の 動 向

学科移転後の場所と研究室(所属教員)は以下のとおりです。

本館13階：国際開発(半沢)、国際協力(増見)、産業開発(長谷川)、農業経済(陳、北野)、国際経済(上原)、国際経営・流通(早川)、理論経済(嘉数)、国際資源経済(緒田原)、学科事務室(落合、山口)。本館12階：国際文化(井上)、国際社会(緒方)、コミュニケーション・言語(相座)、言語・地域(藤田)、国際植物資源(権丈)。4号館2階：国際環境生態(林、ロイ)、熱帯資源作物(倉内)

昇 格

倉内伸幸先生が専任講師から助教授に昇格されました。

(緒方 行廣)



懇談会で挨拶する内田新会長

むつあい会

◇短期大学部農学科◇

連絡先 応用花学研究室

0466-84-3742 事務局長 武田 恭明

E-mail asano@bbs.nihon-u.ac.jpまで

総会・懇親会の開催

平成14年度むつあい会総会は、6月8日（土）15時よりNU階Cホール（新本館14F）において開催されました。

総会は鈴木勝春副会長の開会の辞、富澤寿樹会長の挨拶で始まり、天野六江氏（4期）を議長に選出して議事に入りました。武田恭明事務局長より平成13年度一般経過報告、富澤会長から補足説明と事業の詳細について報告等が行われ、報告通り承認されました。続いて広長正会計幹事より、13年度会計報告（滝沢章監査による監査報告含む）が行われ報告通り承認、さらに、平成14年度会計予算案の審議に入り、予算案通り承認されました。

むつあい会会報編集方針について浅野紘臣編集幹事から紙面構成変更の説明があり了承されました。

懇親会は17時より新本館棟カフェテリアに場所を移し開催されました。来賓として茂澤早校友会長、木村貞司校友会事務局長、河野英一短期大学部次長、校友会11分会長（または代理）および農学科関係教職員のご臨席と準会員10名の参加を得て和やかに開催されました。会は鈴木副会長の司会により、斎藤忠雄幹事の開会のことは、富澤会長の挨拶で始まり、茂澤校友会長、河野短期大学部次長、来賓紹介と続き天野氏の乾杯の音頭で懇談に入りました。来賓の挨拶では、日本大学校友会の充実、さらなる発展のために校友会の制度が一新されたこと、湘南にキャンパスが統一されハード、ソフト両面において充実

が図られていること、景気も低迷、不安定要素が多いことから、校友のみなさんに力強い大学への支援の要請などが述べられました。懇談は会員相互の交流が続く中、再会を期してお開きとなりました。

むつあい会の総会・懇親会の開催日は4月にお届けする「むつあい会会報」に掲載していますが、例年6月上旬の土曜日を予定しています。同期会等を総会・懇親会に合わせて開催されるなどし、多くの会員がご出席下さるようお願いします。

学科の近況

在学生

平成14年3月に60名（51期）が卒業して正会員となりました。4月に61名（女子39名、男子22名）の新入生を迎えました。現在2年生は62名（女子46名、男子16名）で合計123名の準会員が在籍しています。

卒業生の進路

卒業生60名の内、生物資源科学部へ18名、他大学へ9名（国立4名、私立5名）が編入学、専門学校へ7名が入学、就職は14名、その他15名でした。

入学志願状況

平成14年度一般入学試験の志願状況は募集人員25名のところ、231名の応募者があり昨年の118名に比べて二倍程度の増加となりました。農学科では入学者の要望に応え、社会的評価が高まるべく教職員一丸となって一層の努力を致します。これまで同様、校友諸氏の絶大なるご支援をお願いします。

教職員の構成

武田恭明教授（応用花学研究室）、渡辺慶一教授（植物資源利用学研究室）、青山友雄教授（情報工学研究室）、寺澤輝雄教授（植物生態学研究室）、後藤雅弘教授（体育学研究室）、浅野紘臣教授（環境生態学研究室）、安齋寛助教授（応用生物化学研究室）、新町文絵助手、原田晶子助手、以上9名の教職員です。



生活環境学科校友会

◇短期大学部生活環境学科◇

連絡先 環境科学研究室 事務局長 飯塚 統

0466-84-3750

Email: kaken.@jha.brs.nihon-u.ac.jp

校友会総会、懇親会

2001年11月11日(日)午後5時から横浜駅東口のスカイビル27階、レストラン「クルーズクルーズ」にて開催しました。幹事はか常連の人、新しい会員、久しぶりの珍しい顔も見え、懐かしく楽しいひとときを持ちました。

なお本学科校友会の会長の岡崎祥子さんは今年度から生物資源学科の校友会の副会長も兼任されることになり、校友会運営に若い女性の視点からの意見を積極的に出しておられます。

学科の近況

平成14年3月の学科ごとの卒業証書授与式は新本館で行われました。卒業生103人はずっと工事を見てきて1月末に完成したメインビルディングを一度は利用できたのです。

卒業後の進路は、生物資源科学部編入40人、日大他学部編入3人、他大学編入7人、専門学校10人、就職11人、他はアルバイト、家事、未定などでした。



＜食環境コース＞

化学実験風景と観察した反応の例

他大学編入先は、麻布大環境保健学部4人、東京水産大水産学部、静岡大農学部、大正大各1人でした。

生物資源科学部への編入では、学科によっては受入れ枠がゼロだったことが近年は改められ、すべての学科で編入枠が用意されています。また編

入枠の総数は編入希望者数より多いのに、編入学科試験で基準を満たさないために進学できない学生がいるのが現実です。

今年度の新入生は121人、結果的に定員割れだった昨年に較べると志願者も入学者も増えました。例年と同じく、軽井沢1泊2日の研修、校友会からのプレゼントのオリジナルTシャツを着て5月末のスポーツフェスタ参加など順調な学園生活の暦が巡っています。新本館の地階には立派な庭園や噴水を見ながら夕食まで食べられるスエヒロ経営の食堂も新設され、その前のホールの壁は校友会からの贈り物の大きな織物の額(モネの睡蓮の複製)が飾られています。

学内で割安料金で実用英語能力のテスト、TOEICが定期的に受験できるようになったことなども、今年のニュースでしょうか。

事務局より

学部校友会の記事にもあることですが、数年間続いた湘南キャンパスの整備が完成し、東京校舎からは学部のすべての機能が湘南に移転しました。新本館の周りの植込みなどなかなか風情があります。どうぞ折を見て母校のきれいになった姿を見に来て下さい。

今年度の校友会総会、懇親会は例年と同じく11月に開かれます。詳細は同封のちらしをご覧ください。お一人でいらしても飯塚先生はじめ顔なじみに必ず会えますし、クラスメイトを誘って来られればなお楽しいでしょう。どうぞ御参加下さい。

住所、氏名に変更のあった方は上記のホームページで、またははがきで飯塚教授へご連絡ください。

(大川 いづみ)



＜住環境コース＞飯尾先生と屋根の緑化の実例を見学

応用生物科学科校友会

◇応用生物科学科◇

連絡先 蛋白質科学研究室

事務局長 司馬 肇

TEL: 0466-84-3700 FAX: 0466-84-3700

E-mail: chang@brs.nihon-u.ac.jp

平成13年度総会 校友会創立10周年 祝賀会開催

平成13年度の総会・校友会創立10周年祝賀会は平成13年12月22日(土)に相模大野センチュリーホテルにおいて開催されました。総会においては、まず、事務局長が財源、活動状況など校友会の現状について説明し、次に平成13年度の事業報告、会計決算報告、平成14年度の事業計画、会計予算案について審議され、いずれの案件も承認されました。総会後、多数の来賓と校友の出席を得て校友会創立10周年祝賀会が盛大に行われました(写真)。



懇談会の風景

一期生の大谷会長(左)
と二期生の小島氏(右)

懐かしい仲間との再会

平成14年度(第11回)の総会・懇親会は来る12月21日(土)、日本大学生物資源科学部湘南校舎において開催する予定であります。詳細は葉書でご連絡いたします。新本館の高層ビルの完成に伴い、生物資源科学部の景観が大きく変わりました。この機会を利用して、是非見学しに来てください。

応用生物科学科の近況

在籍者：現在応用生物科学科の在籍学生数は600名(男子311名、女子289名)で、学年別では、4年生151名、3年生157名、2年生131名、1年生161名となっています。大学院関係では応用生命科学専攻に在籍する本学科の学生数は博士前期課程34名、博士後期課程10名となっています。

昇格：平成14年4月1日付で青木俊夫専任講師と上田賢志専任講師が助教授に昇格され、私司馬肇も同様に昇格しました。

退職：櫛田(旧姓五十嵐)由衣副手と田中(旧姓矢部)智子副手、が退職されました。短い間ではありましたが、本当にご苦労さまでした。今後のご活躍とご多幸をお祈りいたします。

新任：松澤昭恵副手(平成12年森林資源科学科を卒業)と本多紘子副手(平成13年応用生物科学科を卒業)が着任されました。現在、学生実験補助と学科事務を担当し、学科のために頑張っています。

研究室の再配置：平成14と15年度中に研究室の再配置が行われます。再配置によって各研究室の面積が広くなり、学生により良い勉学と研究環境を提供することができるようになります。

平成14年度では核酸科学研究室、動物細胞学研究室、生体制御科学研究室が4号館3階に移動します。実際のところ、生体制御科学研究室は今年の3月にすでに引越しが完了し、核酸科学研究室と動物細胞学研究室は引越しの最中であります。平成15年度では、分子微生物学研究室、生体分子学研究室、生命工学研究室が4号館2階の中で、蛋白質科学研究室と植物細胞学研究室が4号館3階に移動する予定であります。分子微生物学研究室と蛋白質科学研究室は4号館3階の工事の影響を直接に受けるため、現在4号館5階に一時的に移動しています。

事務局より

応用生物科学科校友会が発展するためには会員の皆様方のご支援とご協力は不可欠であります。今後の校友会の運営や活動について多数のご提案をくださいますようお願いいたします。また、住所変更、改姓などございましたら、事務局までご連絡ください。

松澤昭恵さんと本多紘子さんに応用生物科学科校友会の事務をお願いしたところ、快く引き受けてくださいました。事務局の新スタッフとして今後ともよろしくお願いいたします。

(司馬 肇)

支 部 だ よ り

山梨県支部の近況

連絡先 〒405-0017
山梨市下神内川87-1
支部長 小越 昭雄
TEL 0553-22-2400

山梨県支部は昭和60年11月16日に石和町において、久木田学部長、佐藤弘一会長、石井賢治事務局長の3名の来賓をお迎えし、27名の会員が参加して設立総会を開催しました。以来、今年で17年目になります。

この間には色々な活動をして参りましたが、特に支部会員名簿の発行と頒布の作業は支部会員の実態を把握する上で大変良かったと思います。全会員への文書発送は毎年行っております。

県支部の計画やお願いについて理解していただき協力を得るように努めております。本年は懸案の支部旗が出来上がってきましたので次の会議から掲示いたします。この支部旗を中心に会員親睦と結束に



更に頑張りたいと思います。

今後の予定として、平成15年に理事会、平成17年には創立20周年の県支部総会を予定しています。その折にはご案内申し上げますので大学側から会長様、先生方多数のご出席をお願いいたします。尚、今後一層のご指導をお願いいたします。

(支部長 川越昭雄)

神奈川・生物資源科学部会

連絡先 〒252-8510
藤沢市亀井野1866
日本大学短期大学部
環境生態学研究室
事務局長 浅野 紘臣
TEL 0466-84-3747

最初に私事で恐縮ですが、昭和27年4月農獣医学部の1期生（農学部通年10期生）として入学以



来、丁度50年かかりましたが、昨年度末をもって、定年退職いたしました。半世紀にわたり校友の皆様には大変お世話になりました。

心からお礼申し上げます。去る4月27日（土）、産業社会学研究室のOB企画により、「定年卒業と古希を祝う会」を、藤沢グランドホテルにて開催していただき、全国から集まった120名の卒業生から祝福していただきました。本当にありがとうございました。

顧みれば、私共入学当初の東京校舎は、昨年度末をもって閉鎖となり、藤沢（現湘南キャンパス）に、16階建の近代的な高層校舎が完成し、約8,000名の学生が、緑り豊かで最新の設備が充実した教育環境の中で研究と教育が行なわれております。20世紀後半は激動の時代でしたが、日大という素晴らしい大学の構成員の一人として、歩むことができた幸せを、しみじみ感じているこの頃です。

今後は、元教員として、校友の一人として、学部と校友会の発展に余生を捧げたいと思っておりますので、引き続き、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

(会長・高坂鉄雄)

山形県支部の近況

連絡先 〒990-2433
 山形市鳥居が丘4-55
 日本大学山形高等学校内 池田卓郎
 TEL 023-641-6631
 FAX 023-641-6634

平成14年度支部総会は、2月9日（土）右に蔵王山、左に上山市を臨む極めて風光明媚な場所に建つ「㈱でん六蔵王の森工場」をお借りして行い、総会に先立ち最新機械から生産される各種の豆菓子生産現場を見学しました。総会は木戸啓二支部長（植物）の挨拶の後、小林憲一（環工・44年卒）議長により協議に入り会務報告、会計報告、監査報告及び予算案は原案通り可決決定の後、各学科持ち回りの記念講演が行なわれました。今回は農芸化学科の担当で「㈱でん六勤務の植松恒美氏（44年卒）、演題は「落花生・ナッツと健康」で豆を食することの大切さを拝聴しました。

「10周年記念式典及び校友山科朝雄山形県議会議長就任祝賀会」は会場を山形市ホテルキャッスル

に移して、会員を含め50数名の参加で開催されました。茂澤晃学部校友会会長はじめ原田恒夫日本大学校友会山形県支部長、橋本武日本大学山形高等学校・中学校校長、各学部校友会山形県支部長出席のもと、本支部発足以来貢献された田中恒一氏、梅沢長一氏に茂澤氏より表彰状が授与されました。

懇親会に入り、恒例の学科単位の自己紹介は、酔



いも手伝って真面目ありユーモアあり楽しいものでした。最後に参加者全員による校歌の斉唱でお開きとなりました。

（幹事長 小松文嗣）

高知県支部の近況

連絡先 〒780-0084
 高知市南御座9-19
 事務局 前川 卓也
 TEL 088-880-0538
 maekawa@mb.inforyoma.or.jp

第14回生物資源科学部高知県支部校友会総会が、平成14年8月24日（土）午後5時30分より高知市の「土佐しっぽく葉山」において出席会員21名にて開催されました。

まず中西支部会長の挨拶で開会し、議事に移りま



した。平成13年事業経過、収支決算が上程され満場一致にて承認。14年度活動方針および予算についても原案通り了承され議事は終了しました。

続いてご来賓の茂澤晃会長より、校友会正会員制度のご説明や校友会館設置、将来的な法人格取得の検討等、今後の構想についてくわしくお話をいただきました。

当支部は毎年大学より先生をお招きしておりますが、本年は短大農学科環境情報工学研究室の青山友雄教授にご出席いただき、大学の新しい動きなどをまじえたご祝辞をいただきました。

本年、大学を定年退職された高坂鉄雄先生をお招きしたところ、快く高知までおいでいただきました。

高坂先生は当支部設立時、学部校友会事務局長としてご活躍され、多大なご協力をいただいた方です。先生には高知とのかかわりや近況などユーモアたっぷりのお話をいただきました。

続いて懇親会が開催され、ご来賓をかこんでの和やかな宴となりました。2時間ほどの懇親会を楽しみ、全員で校歌を歌い、再会を誓っての解散となりました。長崎先輩のエールで珍妙な閉めには笑ってしまいました。

（事務局長 前川卓也）

校友会事務局から

「校友会ホームページおよびメールアドレスについて」

学部ITのインフラ整備に伴ない、校友会のホームページをご覧になる方は
学部ホームページ（www.brs.nihon-u.ac.jp）からアクセスして下さい。

なお、E-メールアドレスは

koyukai@brs.nihon-u.ac.jp に変更しました。

平成15年度総会

平成15年7月12日（土）

学部校友会の総会・親睦会は、以前より毎年7月の第2土曜日に開催しております。ご参加ご希望の

方は、事前に事務局までご連絡（E-メール、FAX）下さい。

平成15年度入会金の 予想と支出の検討

日本大学校友会本部の業務変更に伴い、学部校友会も大きな影響を受けることになりました。入会金は、従来の制度から準会員（新入生）と正会員（卒業生）の年会費制に移行することになります。その結果、平成15年度の入会金収入は大幅に減少することが予想されます（表1）。（正会員からの収入は除きました）

表1 平成15年度入会金予想と差異

	入会金単価	人数(予想)	入会金
新入生年会費	6,000	1,700	10,200,000
未納者入会金	20,000	300	6,000,000
		合計	16,200,000

例年の入会金収入の平均	28,400,000
差異	△12,200,000
学部校友会の入会金減少額	△6,100,000

校友会本部からの提案では、準会員の年会費1万円のうち学部校友会への分配金は6千円とされています。この結果、平成15年度の入会金は、前年度ま

での未納者の入会金を加えても約1,600万円となり、ここ数年の入会金収入の平均に比べ約1,200万円の減収となるものと予想されます。これを例年通り入金の半額を各分会交付金とするならば、学部校友会及び交付金は約600万円ずつ減少することになります。

図1 平成13年度の経常費と事業費

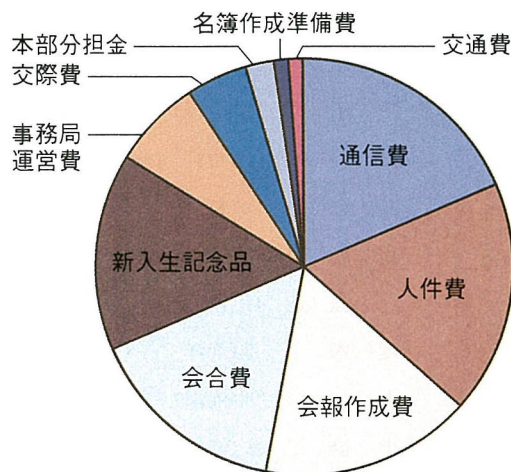


図1は平成13年度学部校友会の支出である経常費と事業費をグラフ化したものです。通信費（主に会報発送補助費）、人件費（総会でのアルバイト代を含む）、会報作成費、会合費（主に総会補助費）、新入生記念品費が大きな割合であることが分かります（各経費は約200万円）。収入減の対策として、これらの経費削減なしに600万円の減少を埋める手ではないものと予想されます。

今後、財務委員会ははじめ皆様方による対策が提案されることを期待します。

日本大学生物資源科学部校友会 役員・事務局名簿

名誉会長	佐々木 恵 彦	日本大学総長の代理・代行者 日本大学生物資源科学部長	〃	斎 藤 公 三(環工)	日本大学生物資源科学部
会 長	茂 澤 杲(農化)	(株)モザワ商店	〃	関 村 具 由(食科)	三凱商事
副会長	富 澤 寿 樹(食経)	(有)マルナカ	〃	栢 英 彦(食科)	チーズ&ワイン アカデミー東京
〃	村 田 昇(環工)	中央開発(株)	〃	竹 永 章 生(食科)	日本大学生物資源科学部
〃	楠 元 守(植物)	日本大学生物資源科学部	〃	内 田 俊太郎(国際)	
〃	岡 崎 祥 子(短生)	三井住友銀行	〃	浜 口 喜 博(国際)	
幹 事	勝 野 武 彦(植物)	日本大学生物資源科学部	〃	早 川 治(国際)	日本大学生物資源科学部
〃	石 川 稔 矩(植物)	日本大学松戸歯学部	〃	鈴 木 勝 春(短農)	神奈川県畜産会
〃	江 刺 琢 磨(農化)		〃	富 樫 利 男(短農)	
〃	木 嶋 弘 倫(農化)	豊栄産業(株)	〃	渡 邊 健 介(短生)	大成建設(株)
〃	日比野 次 郎(獣医)	獣医医院	〃	飯 塚 統(農化)	日本大学短期大学部
〃	鳥 海 弘(獣医)	獣医科病院	〃	大 谷 憲 司(応生)	(株)スリオンテック
〃	月 瀬 東(獣医)	日本大学生物資源科学部	〃	飯 塚 崇(応生)	理研香料工業(株)
〃	内 田 駿 一(動物)	(株)京王百貨店	〃	長 岐 清 孝(応生)	
〃	山 本 捷(動物)	日本農産工業	会長賞 選考委員	小 泉 香 織(短生)	(株)富士通アドバンス ソリューションズ
〃	遠 藤 克(動物)	日本大学生物資源科学部	〃	江 刺 琢 磨(農化)	
〃	村 山 進(食経)		〃	稗 貫 峻(食科)	日本大学生物資源科学部
〃	千 田 徹(食経)	千田税理士事務所	監 査	山 根 勝 次(食経)	
〃	齋 藤 武 至(食経)	日本大学生物資源科学部	〃	西 山 栄 一(植物)	種藤商店(自営)
〃	赤 塚 敏 夫(森林)	(株)埼玉県治山林道協会	〃	濱 本 和 敏(森林)	日本大学生物資源科学部
〃	宮 島 吉 夫(森林)	農林漁業信用基金	事務局長	本 江 一 郎(森林)	日本大学生物資源科学部
〃	石 垣 逸 朗(森林)	日本大学生物資源科学部	局 員	世良田 和 寛(環工)	日本大学生物資源科学部
〃	櫻 木 進(海洋)		〃	丹 羽 美 次(動物)	日本大学生物資源科学部
〃	大谷木 緑四郎(海洋)		〃	千 野 誠(食科)	日本大学生物資源科学部
〃	小 橋 二 夫(海洋)	日本大学生物資源科学部	〃	木 村 貞 司(動物)	日本大学生物資源科学部
〃	鈴 木 昌 二(環工)	世田谷区議会議員			

会 報 編 集 委 員

農学校友会 井 上 弘 明
紫友会 関 泰 一郎
角笛会 山 一 総
満喜葉会 園 田 一 豊
いもづる会 木 島 実
あすなろ会 宮 野 彦
桜水会 吉 原 喜 好

工 学 会 川 西 啓 文
F T 会 阿 部 行 申
拓 友 会 緒 方 広 臣
むっあい会 浅 野 紘
生活環境学 大 川 い づ み
科 校 友 会
応用生物科 佐 藤 嘉 兵
学 校 校 友 会

発 行 所 日本大学生物資源科学部 校友会
〒252-8510 神奈川県藤沢市亀井野1866
TEL FAX 0466-84-3799
Eメール koyukai@brs.nihon-u.ac.jp

編集・発行 会報編集委員会
委員長 富澤 寿樹
印刷所 東京商工株式会社
TEL 03-3231-6234 FAX 03-3231-6320
Eメール shouko@galaxy.ocn.ne.jp